

I 結果の概要

1 川崎市の昼間人口

昼間人口は109万7千人、昼夜間人口比率は87.8

平成12年における川崎市の昼間人口は1,097,090人で、夜間人口(常住人口)の1,249,029人を151,939人下回っており、夜間人口を100とする昼夜間人口比率は87.8となり、通勤・通学人口の流出超過となっています。

前回調査の平成7年と比べると、昼間人口は29,786人(2.8%)増加しましたが、夜間人口も47,148人(3.9%)増加しており、この結果、昼夜間人口比率は1.0ポイント低下しています。

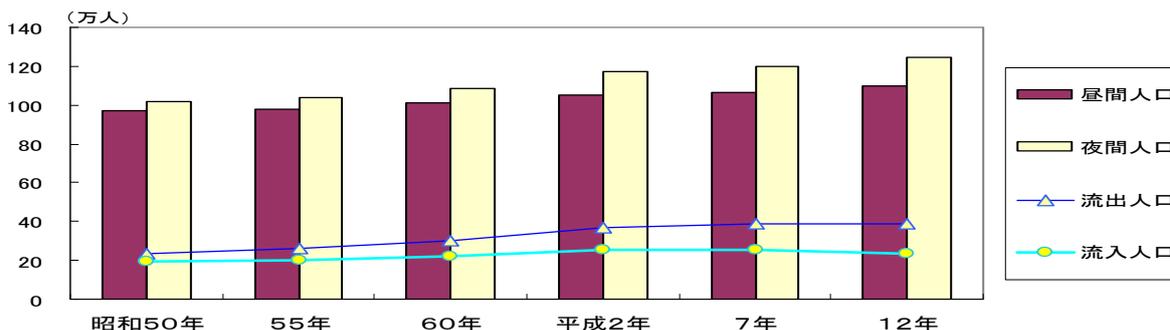
昭和35年以降の昼夜間人口比率の推移をみると、昭和35年には102.6でしたが、40年には97.9と100を下回り、その後もベッタウン化の進展などから流出超過人口の増加、また、昼間人口を上回る夜間人口の伸びなどにより、一貫して昼夜間人口比率は低下し、平成7年には88.8と90を下回っています。

表1 昼間流動人口の推移(昭和50年~平成12年)

区分	人 口						増 加 率 (%)				
	昭和50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	昭和50年 ~55年	昭和55年 ~60年	昭和60年 ~平成2年	平成2年 ~7年	平成7年 ~12年
夜間人口	1 014 951	1 039 977	1 088 502	1 171 041	1 201 881	1 249 029	2.5	4.7	7.6	2.6	3.9
うち就業者	483 952	502 309	548 716	625 376	650 979	649 403	3.8	9.2	14.0	4.1	△0.2
流入人口	191 597	202 227	221 129	252 851	255 500	236 239	5.5	9.3	14.3	1.0	△7.5
うち就業者	169 267	178 051	196 422	224 453	228 327	212 897	5.2	10.3	14.3	1.7	△6.8
流出人口	237 693	263 415	298 290	370 441	390 077	388 178	10.8	13.2	24.2	5.3	△0.5
うち就業者	191 879	215 826	250 217	311 651	331 012	335 718	12.5	15.9	24.6	6.2	1.4
流入超過人口	△46 096	△61 188	△77 161	△117 590	△134 577	△151 939	△32.7	△26.1	△52.4	△14.4	△12.9
うち就業者	△22 612	△37 775	△53 795	△87 198	△102 685	△122 821	△67.1	△42.4	△62.1	△17.8	△19.6
昼間人口	968 855	978 789	1 011 341	1 053 451	1 067 304	1 097 090	1.0	3.3	4.2	1.3	2.8
うち就業者	461 340	464 534	494 921	538 178	548 294	526 582	0.7	6.5	8.7	1.9	△4.0
昼夜間人口比率	95.5	94.1	92.9	90.0	88.8	87.8	-	-	-	-	-

(注) 昭和55年以降の夜間人口及び昼間人口は年齢「不詳」を除く。なお、平成12年の年齢不詳は876人です。

図1 昼間流動人口の推移(昭和50年~平成12年)



2 行政区の昼間人口

(1) 区別昼間人口

昼間人口は川崎区が261,209人で最も多い

平成12年の昼間人口を区別にみると、最も多いのは川崎区の261,209人、次いで中原区の178,683人、高津区の149,736人、多摩区の145,416人、宮前区の135,913人、幸区の123,180人、麻生区の102,953人となっています。

昼間人口と夜間人口の順位を比較すると、夜間人口4位の川崎区が昼間人口では1位に、5位の高津区が3位に、7位で最下位の幸区が6位に順位を上げているのに対し、夜間人口3位の多摩区が4位に、1位の宮前区が5位に、6位の麻生区が最下位に順位を下げています。なお、中原区は昼夜間人口とも2位となっています。

表2 区別、昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移（昭和50年～平成12年）

区 別	人 口						増 減 率 (%)					
	昭和50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	昭和50年 ～55年	昭和55年 ～60年	昭和60年 ～平成2年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年	
川 崎 区												
昼間人口	297 967	276 084	275 811	282 013	274 457	261 209	△ 7.3	△ 0.1	2.2	△ 2.7	△ 4.8	
夜間人口	216 569	198 882	193 917	199 910	195 759	193 929	△ 8.2	△ 2.5	3.1	△ 2.1	△ 0.9	
昼夜間人口比率	137.6	138.8	142.2	141.1	140.2	134.7	—	—	—	—	—	
幸 区												
昼間人口	130 884	121 147	119 455	127 177	125 599	123 180	△ 7.4	△ 1.4	6.5	△ 1.2	△ 1.9	
夜間人口	148 756	138 495	137 303	142 136	139 030	136 400	△ 6.9	△ 0.9	3.5	△ 2.2	△ 1.9	
昼夜間人口比率	88.0	87.5	87.0	89.5	90.3	90.3	—	—	—	—	—	
中 原 区												
昼間人口	176 114	170 017	175 780	174 571	174 551	178 683	△ 3.5	3.4	△ 0.7	△ 0.0	2.4	
夜間人口	197 550	185 101	183 406	187 366	190 234	198 273	△ 6.3	△ 0.9	2.2	1.5	4.2	
昼夜間人口比率	89.1	91.9	95.8	93.2	91.8	90.1	—	—	—	—	—	
高 津 区												
昼間人口	206 942	231 312	133 440	138 581	140 504	149 736	11.8	…	3.9	1.4	6.6	
夜間人口	249 429	283 837	152 710	164 030	172 170	182 062	13.8	…	7.4	5.0	5.7	
昼夜間人口比率	83.0	81.5	87.4	84.5	81.6	82.2	—	—	—	—	—	
宮 前 区												
昼間人口	—	—	112 768	117 865	123 347	135 913	—	—	4.5	4.7	10.2	
夜間人口	—	—	160 571	177 411	185 482	199 832	—	—	10.5	4.5	7.7	
昼夜間人口比率	—	—	70.2	66.4	66.5	68.0	—	—	—	—	—	
多 摩 区												
昼間人口	156 948	180 229	123 783	131 710	138 250	145 416	14.8	…	6.4	5.0	5.2	
夜間人口	202 647	233 662	152 243	175 237	186 989	196 485	15.3	…	15.1	6.7	5.1	
昼夜間人口比率	77.4	77.1	81.3	75.2	73.9	74.0	—	—	—	—	—	
麻 生 区												
昼間人口	—	—	70 304	81 534	90 596	102 953	—	—	16.0	11.1	13.6	
夜間人口	—	—	108 352	124 951	132 217	142 048	—	—	15.3	5.8	7.4	
昼夜間人口比率	—	—	64.9	65.3	68.5	72.5	—	—	—	—	—	

(注1) 昭和55年以降の昼間人口及び夜間人口は年齢「不詳」を除く。

(注2) 昭和55年7月に高津区から宮前区、多摩区から麻生区が分区して7区制に移行。

昼間人口を前回の調査と比べると、宮前区が 12,566 人（前回比 10.2%）増、麻生区が 12,357 人（同 13.6%）増、高津区が 9,232 人（同 6.6%）増などとなっています。一方、川崎区が 13,248 人（同 4.8%）減、幸区が 2,419 人（同 1.9%）減となっています。

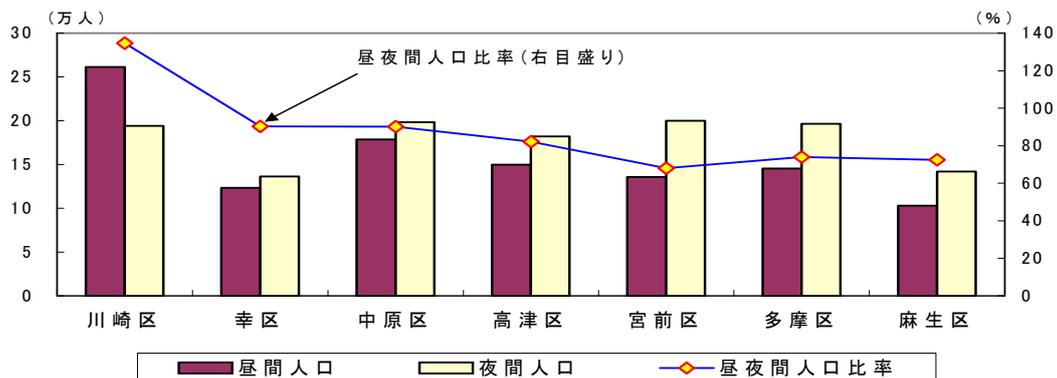
次に、昼間人口と夜間人口の差をみると、事業所が集積している川崎区は、昼間人口が夜間人口を 67,280 人上回っているのに対し、宮前区（63,919 人）をはじめ、多摩区（51,069 人）、麻生区（39,095 人）、高津区（32,326 人）、中原区（19,590 人）、幸区（13,220 人）では、昼間人口が夜間人口を下回っています。

昼夜間人口比率の最高は川崎区の134.7、最低は宮前区の68.0

昼夜間人口比率をみると、唯一昼間人口が夜間人口を上回る川崎区が 134.7 と最も高く、次いで幸区の 90.3、中原区の 90.1 と続き全市平均（87.8）を上回っています。最も低いのは宮前区の 68.0 で、次いで麻生区の 72.5、多摩区の 74.0、高津区の 82.2 となっています。川崎区が大幅な流入人口の超過となっていますが、他のすべての区では 100 を下回り流出人口の超過となっています。特に宮前区は 60 台になっており、住宅地としての性格が表れています。

前回調査の平成 7 年と比べると、金融不安や消費の低迷、生産拠点の移転など産業の空洞化に伴う雇用情勢の悪化などにより昼間人口の減少した川崎区で 5.5 ポイント低下しました。また、中原区でも 1.7 ポイント低下しましたが、新百合ヶ丘駅周辺の整備などに伴い昼間人口の増加した麻生区で 4.0 ポイント上昇したのを始め、宮前区で 1.5 ポイント、高津区で 0.6 ポイント、多摩区で 0.1 ポイントそれぞれ上昇しました。

図 2 区別、昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率（平成 12 年）



(2) 区別割合

昼間の人口比重の最高は川崎区の23.8%、最低は麻生区の9.4%

区別昼間人口の地域分布を人口比重（川崎市全域に占める各区の人口の割合）でみると、

昼間は川崎区が23.8%と高く、次いで中原区が16.3%、高津区が13.6%などとなっているのに対し、夜間は宮前区が16.0%、中原区が15.9%、多摩区が15.7%などとなっています。また、夜間より昼間の人口比重が高い区は、川崎区、幸区、中原区の3区で、特にその差は川崎区で8.3ポイントと大きくなっています。

次に、人口比重と面積比をみると、最も広い川崎区は面積比27.9%に対し、昼間の人口比重は23.8%と、面積比を4.1ポイント下回っています。一方、面積の狭い幸区は面積比7.0%に対し、昼間の人口比重は11.2%と、面積比を4.2ポイント上回り面積より人口の比重が大きくなっています。

表3 区別、面積比及び人口比重（平成2年～12年）

区 別	面 積 比 (平成12年)	人 口 比 重						人口比重-面積比 (平成12年)	
		昼 間 人 口			夜 間 人 口			昼間人口	夜間人口
		平成2年	7年	12年	平成2年	7年	12年		
全 市	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
川 崎 区	27.9	26.8	25.7	23.8	17.1	16.3	15.5	△ 4.1	△ 12.4
幸 区	7.0	12.1	11.8	11.2	12.1	11.6	10.9	4.2	3.9
中 原 区	10.3	16.6	16.4	16.3	16.0	15.8	15.9	6.0	5.6
高 津 区	11.8	13.2	13.2	13.6	14.0	14.3	14.6	1.8	2.7
宮 前 区	12.9	11.2	11.6	12.4	15.1	15.4	16.0	△ 0.5	3.1
多 摩 区	14.1	12.5	13.0	13.3	15.0	15.6	15.7	△ 0.9	1.6
麻 生 区	16.0	7.7	8.5	9.4	10.7	11.0	11.4	△ 6.6	△ 4.6

(3) 人口密度及び接近度

昼間の人口接近度の最長は麻生区の16.1m、最短は幸区の9.7m

川崎市の昼間の人口密度(人/k㎡当たり)は7,600人で、平成7年(7,419人)より181人増加しましたが、夜間の人口密度に比べ1k㎡当たり1,053人下回っています。

昼間の人口密度を区別にみると、幸区が12,208人、中原区が12,065人と面積が狭いこともあり非常に高く、次いで高津区が8,756人などとなっています。

また、人口分布の密度を表すための指標の1つとして人口接近度がありますが、川崎市の昼間の接近度は12.3mで、夜間(11.6m)より0.7m長くなっています。区別にみると、麻生区が16.1mで、夜間(13.7m)より2.4m長く、次いで川崎区が13.3mで、夜間(15.5m)より2.2m短くなっています。昼間の人口密度が最も高い幸区では9.7mで、最も低い麻生区では16.1mと、区間の最大格差は6.4mとなっています。

(注) 人口接近度とは、川崎市域に完全に均等に人口が分布しているとした場合に、最も接近している者相互間の距離として表されるもので、計算式は次のとおりです。

$$\text{人口接近度} = 1074.56 / \sqrt{\text{人口密度}} \text{ m}$$

表4 区別、昼間人口・夜間人口の密度及び接近度（平成12年）

区別	面積 (km ²)	人口		人口密度(人/km ²)		接近度(m)	
		昼間人口	夜間人口	昼間人口	夜間人口	昼間人口	夜間人口
全市	144.35	1 097 090	1 249 029	7 600	8 653	12.3	11.6
川崎区	40.25	261 209	193 929	6 490	4 818	13.3	15.5
幸区	10.09	123 180	136 400	12 208	13 518	9.7	9.2
中原区	14.81	178 683	198 273	12 065	13 388	9.8	9.3
高津区	17.10	149 736	182 062	8 756	10 647	11.5	10.4
宮前区	18.60	135 913	199 832	7 307	10 744	12.6	10.4
多摩区	20.39	145 416	196 485	7 132	9 636	12.7	10.9
麻生区	23.11	102 953	142 048	4 455	6 147	16.1	13.7

(注)昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

3 町丁別の昼間人口

昼間人口の最も多い町丁は多摩区の登戸

昼間人口を町丁別に推計し、どの地域に人口が集中的に分布しているかをみると、上位30位までにランクしている町丁数は高津区が8町丁と最も多く、次いで中原区が6町丁、川崎区が5町丁となっています。

表5 川崎市町丁別昼間人口の順位－上位30町丁（平成12年）

順位	区	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率
1	多摩区	登野戸	18 699	19 679	95.0
2	宮前区	野川	16 706	25 486	65.6
3	麻生区	王禅寺	14 756	21 335	69.2
4	幸区	小倉	13 276	20 898	63.5
5	多摩区	三田2丁目	12 599	991	1,271.4
6	中原区	木月	12 572	17 410	72.2
7	川崎区	駅前本町	12 499	552	2,264.4
8	中原区	上小田中4丁目	11 644	-	-
9	高津区	末長	11 522	15 365	75.0
10	幸区	堀川町	11 489	293	3,921.1
11	高津区	下作延部	11 203	18 653	60.1
12	中原区	下沼	11 074	3 648	303.6
13	川崎区	日進	10 077	6 498	155.1
14	高津区	久地	8 772	8 246	106.4
15	高津区	子母口・子母口富士見台	8 377	8 445	99.2
16	高津区	千島	8 344	11 402	73.2
17	幸区	鹿島田	8 219	6 170	133.2
18	宮前区	馬絹	8 154	12 854	63.4
19	中原区	小杉町1丁目	7 889	2 526	312.3
20	中原区	上平間	7 677	9 509	80.7
21	高津区	久本3丁目	7 627	5 182	147.2
22	多摩区	東三田1丁目	7 543	549	1,373.9
23	川崎区	東扇	7 354	-	-
24	高津区	久末	7 100	13 792	51.5
25	川崎区	浮島	7 065	3	235,502.4
26	高津区	溝口1丁目	6 858	612	1,120.6
27	麻生区	上麻生1丁目	6 768	295	2,294.4
28	川崎区	南渡田	6 669	1	666,923.4
29	中原区	中丸	6 649	7 409	89.7
30	宮前区	菅生2丁目	6 574	2 022	325.1

(注) 昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

表6 区別、町丁別昼間人口の順位—上位10町丁（平成12年）

(川崎区)					(宮前区)				
順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率	順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率
1	駅前本町	12 499	552	2,264.4	1	野川	16 706	25 486	65.6
2	日進町	10 077	6 498	155.1	2	馬絹	8 154	12 854	63.4
3	東扇島	7 354	-	-	3	菅生2丁目	6 574	2 022	325.1
4	浮島	7 065	3	235,502.4	4	宮前平2丁目	5 028	3 767	133.5
5	南渡田	6 669	1	666,923.4	5	南平	3 500	4 649	75.3
6	東田	5 913	1 125	525.6	6	宮崎2丁目	3 388	3 200	105.9
7	南	4 841	2 039	237.4	7	宮崎	3 388	5 120	66.2
8	砂子2丁目	4 424	483	916.0	8	鷺沼1丁目	3 185	4 206	75.7
9	砂子1丁目	4 331	281	1,541.3	9	犬蔵1丁目	3 034	3 009	100.8
10	小川	3 716	1 209	307.4	10	有馬7丁目	2 542	2 159	117.7

(幸区)					(多摩区)				
順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率	順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率
1	小倉	13 276	20 898	63.5	1	登戸	18 699	19 679	95.0
2	堀川	11 489	293	3,921.1	2	東三田2丁目	12 599	991	1,271.4
3	鹿島田	8 219	6 170	133.2	3	東三田1丁目	7 543	549	1,373.9
4	小向東芝	5 410	-	-	4	西生田1丁目	3 820	823	464.2
5	下平	5 293	6 516	81.2	5	宿河原2丁目	2 864	5 290	54.1
6	柳	4 295	1 715	250.4	6	中野島3丁目	2 781	3 295	84.4
7	南加瀬3丁目	4 156	4 105	101.2	7	中野島4丁目	2 772	2 959	93.7
8	河原	4 076	8 641	47.2	8	中野島6丁目	2 769	5 262	52.6
9	南加瀬4丁目	3 976	5 825	68.3	9	宿河原6丁目	2 577	4 721	54.6
10	南幸町3丁目	2 821	2 934	96.1	10	登戸新町	2 447	4 293	57.0

(中原区)					(麻生区)				
順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率	順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率
1	木月	12 572	17 410	72.2	1	王禅寺	14 756	21 335	69.2
2	上小田中4丁目	11 644	-	-	2	上麻生1丁目	6 768	295	2,294.4
3	下沼部	11 074	3 648	303.6	3	万福寺1丁目	5 967	415	1,437.8
4	小杉町1丁目	7 889	2 526	312.3	4	栗木3丁目	3 471	50	6,942.4
5	上平	7 677	9 509	80.7	5	下麻生	3 324	6 901	48.2
6	中丸	6 649	7 409	89.7	6	岡上	2 951	6 320	46.7
7	小杉町3丁目	5 271	1 642	321.0	7	百合丘1丁目	2 664	3 355	79.4
8	市ノ坪	4 671	7 499	62.3	8	上麻生6丁目	2 025	2 189	92.5
9	木月住吉町	4 340	3 936	110.3	9	上麻生3丁目	2 010	2 870	70.0
10	下小田中2丁目	4 256	4 072	104.5	10	上麻生5丁目	1 977	2 425	81.5

(高津区)				
順位	町丁名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比 率
1	末長	11 522	15 365	75.0
2	下作延	11 203	18 653	60.1
3	久地	8 772	8 246	106.4
4	子母口・子母口富士見台	8 377	8 445	99.2
5	千	8 344	11 402	73.2
6	久本3丁目	7 627	5 182	147.2
7	久末	7 100	13 792	51.5
8	溝口1丁目	6 858	612	1,120.6
9	久本2丁目	6 511	1 620	401.9
10	上作延	5 400	10 027	53.9

(注) 昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

(注) 町丁別昼間人口の推計方法について

国勢調査結果では、就業者・通学者の従業地・通学地の情報はその市区町村までしかなく、町丁・字等レベルでの流入・流出を算出することはできません。

したがって、町丁別昼間人口は<昼間人口=夜間人口-流出人口+流入人口>に替え、国勢調査結果とともに、平成12年学校基本調査及び平成13年事業所・企業統計調査の集計結果を基に推計しました。

4 昼間人口の男女構成

男性が563,966人、女性が533,124人で人口性比は105.8

平成12年の昼間人口を男女別にみると、男性が563,966人、女性が533,124人で男性が女性よりも30,842人多く、人口性比（女性100人に対する男性の数）は105.8となっています。

次に、夜間人口（男性649,384人、女性599,645人）と比べると、男性は85,418人、女性も66,521人それぞれ少なくなっており、人口性比も夜間人口の性比（108.3）を2.5ポイント下回っています。これは、東京都や横浜市など市外への通勤・通学者が男性において多いためと思われます。

人口性比は川崎区が155.3で最も高く、麻生区が71.5で最も低い

区別に昼間人口を男女別みると、川崎区では、男性が158,890人、女性が102,319人で、夜間人口（男性102,883人、女性91,046人）に比べ、男性が56,007人、女性が11,273人、それぞれ多くなっています。昼間人口の性比は、夜間人口の性比（113.0）と比べ42.3ポイント上回る155.3と市内で最も高くなっています。これは、臨海部に大規模な工場群などをもち、男性就労者の流入超過人口が多いため、人口性比が引き上げられているものと思われる。

幸区及び中原区では、男女ともに昼間人口が夜間人口を下回っていますが、女性の流出超過人口が男性と比較して多く、昼間人口の性比は夜間人口の性比を上回り、幸区で119.6、中原区で114.7となっています。

高津区、宮前区、多摩区及び麻生区では、男女ともに昼間人口が夜間人口を下回っていますが、幸区、中原区とは反対に男性の流出超過人口が、女性より多く、昼間人口の性比が夜間人口の性比を下回っています。特に北部の宮前区、麻生区の2区では約30ポイント下回るものとなっており、市外への通勤・通学者が男性において多いことを示しています。昼間人口の性比は、高津区で94.9、宮前区で75.7、多摩区で88.3、麻生区では市内で最も低い71.5となっています。

表7 区別、男女別昼間人口・夜間人口及び人口性比（平成12年）

区別	昼間人口		夜間人口		性比	
	男	女	男	女	昼間人口	夜間人口
全市	563 966	533 124	649 384	599 645	105.8	108.3
川崎区	158 890	102 319	102 883	91 046	155.3	113.0
幸区	67 090	56 090	70 537	65 863	119.6	107.1
中原区	95 455	83 228	104 495	93 778	114.7	111.4
高津区	72 893	76 843	94 441	87 621	94.9	107.8
宮前区	58 546	77 367	101 859	97 973	75.7	104.0
多摩区	68 184	77 232	104 212	92 273	88.3	112.9
麻生区	42 908	60 045	70 957	71 091	71.5	99.8

（注）昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

5 昼間人口の年齢構成

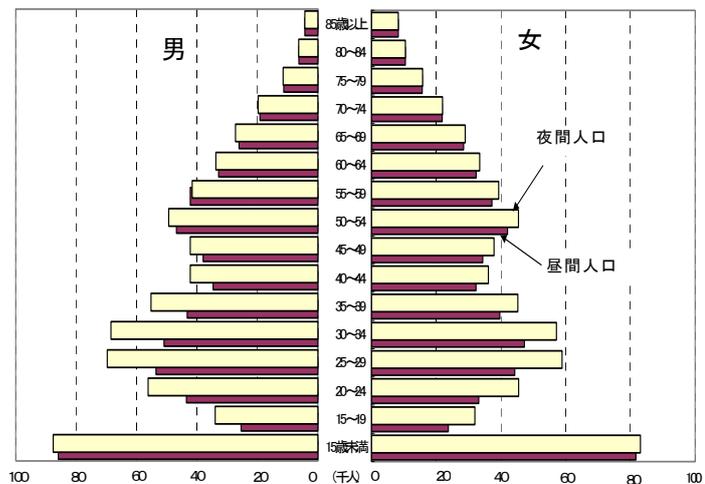
すべての年齢階級で昼間人口が夜間人口を下回る

平成12年の昼間人口を年齢3区分別にみると、0歳～14歳の年少人口が167,630人（昼間人口の15.3%）、15歳～64歳の生産年齢人口が777,549人（同70.9%）、65歳以上の老年人口が151,911人（同13.8%）となっています。年齢3区分別構成比を昼間人口と夜間人口（年少人口13.7%、生産年齢人口73.9%、老年人口12.4%）と比較すると、昼間人口が年少人口及び老年人口の割合が高く、生産年齢人口の割合では低くなっています。

昼間人口と夜間人口を5歳階級ごとに比較すると、すべての5歳階級で昼間人口が夜間人口を下回っています。特に20歳代と30歳代で大きく下回っています。

昼間人口の年齢構成を男女別にみると、男性は20歳～30歳代で、女性は20歳代で昼間人口が夜間人口を大きく下回っており、これらの層の流出が多くなっていることが分かります。

図3 川崎市の昼夜間人口ピラミッド



区別に昼間人口の年齢3区分別

構成比を夜間人口と比較すると、川崎区では年少人口及び老年人口の割合が低く、生産年齢人口の割合が高くなっていますが、幸区をはじめ他の6区では、川崎区とは反対に年少人口及び老年人口の割合が高く、生産年齢人口の割合が低くなっています。

表8 区別、年齢（3区分）別昼間人口・夜間人口（平成12年）

区別	昼間人口				夜間人口			
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
実数								
全市	1 097 090	167 630	777 549	151 911	1 249 029	170 670	923 655	154 704
川崎区	261 209	23 448	203 795	33 966	193 929	24 013	138 371	31 545
幸区	123 180	16 304	86 438	20 438	136 400	17 283	97 975	21 142
中原区	178 683	25 355	129 414	23 914	198 273	25 460	148 758	24 055
高津区	149 736	25 231	105 335	19 170	182 062	25 296	137 124	19 642
宮前区	135 913	30 842	87 512	17 559	199 832	32 079	148 911	18 842
多摩区	145 416	26 738	98 947	19 731	196 485	26 778	148 844	20 863
麻生区	102 953	19 712	66 108	17 133	142 048	19 761	103 672	18 615
構成比 (%)								
全市	100.0	15.3	70.9	13.8	100.0	13.7	73.9	12.4
川崎区	100.0	9.0	78.0	13.0	100.0	12.4	71.4	16.3
幸区	100.0	13.2	70.2	16.6	100.0	12.7	71.8	15.5
中原区	100.0	14.2	72.4	13.4	100.0	12.8	75.0	12.1
高津区	100.0	16.9	70.3	12.8	100.0	13.9	75.3	10.8
宮前区	100.0	22.7	64.4	12.9	100.0	16.1	74.5	9.4
多摩区	100.0	18.4	68.0	13.6	100.0	13.6	75.8	10.6
麻生区	100.0	19.1	64.2	16.6	100.0	13.9	73.0	13.1

(注)昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

6 昼間就業者の産業構成

(1) 産業（3部門）別昼間就業者数

昼間就業者は526,582人、65.8%が第3次産業に従事

平成12年の15歳以上の昼間就業者（川崎市内で従業する就業者）数は526,582人で、これを産業3部門別にみると、農林漁業の第1次産業就業者が2,837人（昼間就業者の0.5%）、鉱業、建設業、製造業の第2次産業就業者が167,827人（同31.9%）、運輸・通信業、卸売・小売業、金融・保険業、サービス業等の第3次産業就業者が346,249人（同65.8%）となっています。

前回の調査から5年間に昼間就業者総数は、21,712人（4.0%）減少しました。これを3部門別にみると、第1次産業が523人（15.6%）減、第2次産業が38,036人（18.5%）減とそれぞれ減少する一方で、第3次産業は13,851人（4.2%）増加しました。

表9 産業（大分類）別15歳以上昼間就業者数の推移（昭和60年～平成12年）

産業(大分類)別	昼間就業者				産業別割合(%)				増加率(%)		
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	昭和60年 ～平成2年	平成2年 ～7年	平成7年 ～12年
総数	494 921	538 178	548 294	526 582	100.0	100.0	100.0	100.0	8.7	1.9	△ 4.0
第1次産業	3 873	3 483	3 360	2 837	0.8	0.6	0.6	0.5	△ 10.1	△ 3.5	△ 15.6
農 業	3 829	3 434	3 228	2 815	0.8	0.6	0.6	0.5	△ 10.3	△ 6.0	△ 12.8
林 業	5	5	4	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 20.0	△ 50.0
漁 業	39	44	128	20	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	190.9	△ 84.4
第2次産業	229 097	226 174	205 863	167 827	46.3	42.0	37.5	31.9	△ 1.3	△ 9.0	△ 18.5
鉱 業	62	63	88	103	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	39.7	17.0
建 設 業	48 720	55 541	61 082	52 435	9.8	10.3	11.1	10.0	14.0	10.0	△ 14.2
製 造 業	180 315	170 570	144 693	115 289	36.4	31.7	26.4	21.9	△ 5.4	△ 15.2	△ 20.3
第3次産業	259 544	304 791	332 398	346 249	52.4	56.6	60.6	65.8	17.4	9.1	4.2
電気・ガス・ 熱供給・水道業	3 532	3 620	3 686	3 217	0.7	0.7	0.7	0.6	2.5	1.8	△ 12.7
運輸・通信業	35 262	38 197	39 880	40 276	7.1	7.1	7.3	7.6	8.3	4.4	1.0
卸売・小売業、 飲食店	91 049	99 028	105 736	107 044	18.4	18.4	19.3	20.3	8.8	6.8	1.2
金融・保険業	10 901	12 617	13 061	10 899	2.2	2.3	2.4	2.1	15.7	3.5	△ 16.6
不動産業	5 106	7 189	8 517	9 600	1.0	1.3	1.6	1.8	40.8	18.5	12.7
サービス業	102 175	132 711	150 866	164 909	20.6	24.7	27.5	31.3	29.9	13.7	9.3
公務(他に分類 されないもの)	11 519	11 429	10 652	10 304	2.3	2.1	1.9	2.0	△ 0.8	△ 6.8	△ 3.3
分類不能の産業	2 407	3 730	6 673	9 669	0.5	0.7	1.2	1.8	55.0	78.9	44.9

産業3部門別就業者の推移をみると、第1次産業就業者は、昭和45年には全産業の1.3%を占めていましたが、経済の高度成長と都市化が進展するなか、一貫して低下して、平成12年には0.5%となっています。

第2次産業就業者は、昭和50年には52.3%を占め、5割を超えていましたが、55年には48.7%と5割を割りました。その後も低下傾向で推移し、平成7年には37.5%と4割を下回り、今回の調査では更に低下し31.9%となっています。

第3次産業就業者は、石油危機の前後を通じても一貫して増加しました。経済のサービス化、ソフト化の進展を背景に、全産業に占める割合も昭和45年に39.5%であったものが、55年には50.2%と5割を超えて第2次産業を上回り、平成7年には60.6%と6割を超え、今回の調査では65.8%となっています。

(2) 産業（大分類）別昼間就業者数

「製造業」が20.3%減少、「サービス業」が9.3%増加

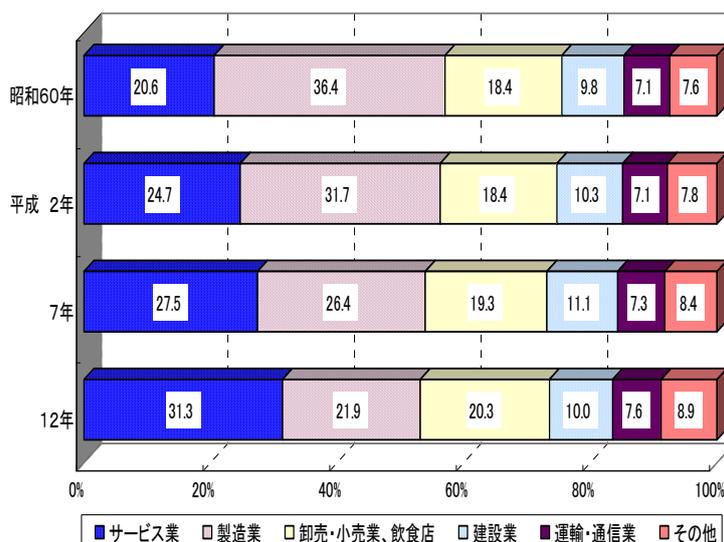
昼間就業者を産業大分類別にみると、「サービス業」が164,909人（昼間就業者の31.3%）と最も多く、以下「製造業」の115,289人（同21.9%）、「卸売・小売業、飲食店」の107,044人（同20.3%）と続いており、この3産業で昼間就業者全体の73.5%を占めています。

前回の調査から5年間に昼間就業者総数は、21,712人（4.0%）減少しました。これを産業大分類別にみると、最も減少したのは「製造業」の29,404人（20.3%）減、以下「建設業」の8,647人（14.2%）減、「金融・保険業」の2,162人（16.6%）減などとなっています。一方、増加したのは、「サービス業」の14,043人（9.3%）増と最も多く、次いで「卸売・小売業、飲食店」の1,308人（1.2%）増などとなっています。

次に、「製造業」の就業者割合の推移をみると、昭和50年には全産業の42.7%を占めていましたが、工場の地方移転や石油危機を契機とした産業構造の変化などにより、55年には、38.8%と4割を割り、その後も低下傾向が続き、平成7年には26.4%と3割を下回りました。今回の調査では、更に低下して21.9%となっています。

これに対し、「サービス業」は昭和50年には15.3%に過ぎませんでしたが、消費者のニーズの多様化や、いわゆる「産業のソフト化」が進行し、60年には20.6%と2割を超え、平成7年には27.5%と「製造業」（26.4%）を初めて上回り昼間就業者数第1位の産業となり、今回の調査では31.3%と初めて3割を超えました。

図4 産業（大分類）別就業者割合の推移
(昭和60年～平成12年)



(3) 区別の状況

就業者割合は、第2次産業では中原区が高く、第3次産業では麻生区が高い

産業3部門別割合を区別にみると、第1次産業では宮前区及び麻生区が1.7%で市内各区の中で最も高く、次いで多摩区の1.4%となっており、北部の3区で1%を超えています。

第2次産業では中原区が37.8%と最も高く、次いで幸区の35.5%などとなっています。一方、割合の低い区は麻生区の16.1%、多摩区の22.0%などとなっています。

第3次産業では麻生区が79.4%で最も高く、以下、宮前区(73.9%)、多摩区(73.7%)で北部の3区が全市平均(65.8%)を超えています。割合の低い区は、中原区の59.8%、幸区の63.0%となっています。

図5 区別、産業(3部門)別就業者の割合

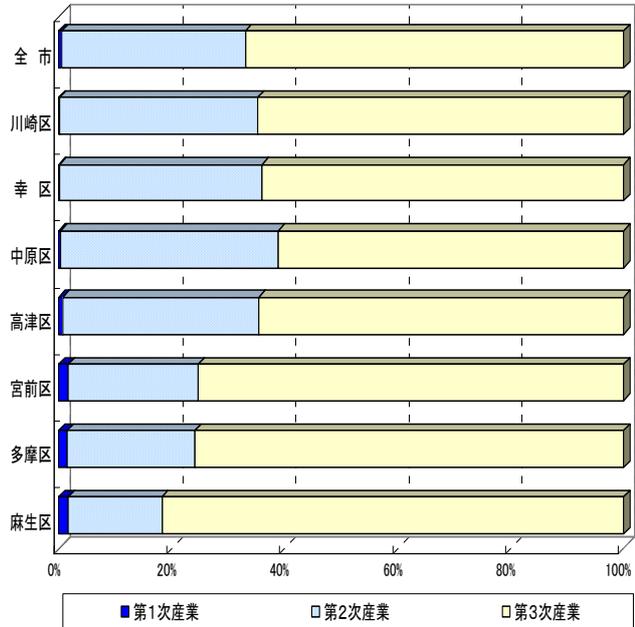


表10 区別、産業(大分類)別15歳以上昼間就業者数(平成12年)

産業(大分類)別	昼間就業者								産業別割合(%)							
	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
総数	526 582	171 058	62 817	92 831	71 292	48 490	46 281	33 813	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
第1次産業	2 837	68	36	257	469	803	644	560	0.5	0.0	0.1	0.3	0.7	1.7	1.4	1.7
農業	2 815	54	33	256	469	801	643	559	0.5	0.0	0.1	0.3	0.7	1.7	1.4	1.7
林業	2	1	—	—	—	—	1	—	0.0	0.0	—	—	—	—	0.0	—
漁業	20	13	3	1	—	2	—	1	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0
第2次産業	167 827	59 545	22 312	35 090	24 344	10 915	10 193	5 428	31.9	34.8	35.5	37.8	34.1	22.5	22.0	16.1
鉱業	103	45	9	22	14	8	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	52 435	19 421	5 523	6 386	6 713	5 938	5 310	3 144	10.0	11.4	8.8	6.9	9.4	12.2	11.5	9.3
製造業	115 289	40 079	16 780	28 682	17 617	4 969	4 881	2 281	21.9	23.4	26.7	30.9	24.7	10.2	10.5	6.7
第3次産業	346 249	109 227	39 605	55 554	45 119	35 820	34 087	26 837	65.8	63.9	63.0	59.8	63.3	73.9	73.7	79.4
電気・ガス・熱供給・水道業	3 217	1 445	291	320	397	208	443	113	0.6	0.8	0.5	0.3	0.6	0.4	1.0	0.3
運輸・通信業	40 276	21 334	3 379	4 451	4 153	3 449	1 971	1 539	7.6	12.5	5.4	4.8	5.8	7.1	4.3	4.6
卸売・小売業	107 044	32 032	11 385	16 418	14 157	13 187	11 342	8 523	20.3	18.7	18.1	17.7	19.9	27.2	24.5	25.2
飲食店	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融・保険業	10 899	4 014	943	1 618	1 511	712	942	1 159	2.1	2.3	1.5	1.7	2.1	1.5	2.0	3.4
不動産業	9 600	1 881	808	1 801	1 504	1 148	1 466	992	1.8	1.1	1.3	1.9	2.1	2.4	3.2	2.9
サービス業	164 909	43 601	22 006	29 765	22 334	16 320	17 078	13 805	31.3	25.5	35.0	32.1	31.3	33.7	36.9	40.8
公務(他分類されないもの)	10 304	4 920	793	1 181	1 063	796	845	706	2.0	2.9	1.3	1.3	1.5	1.6	1.8	2.1
分類不能の産業	9 669	2 218	864	1 930	1 360	952	1 357	988	1.8	1.3	1.4	2.1	1.9	2.0	2.9	2.9

7 13 大都市の昼間人口

昼間人口総数は13大都市で第10位、人口密度は第4位

13大都市の昼間人口をみると、東京都区部（11,125,135人）が最も多く、次いで大阪市（3,664,414人）、横浜市（3,091,166人）が300万人以上、次いで名古屋市（2,514,549人）、札幌市（1,820,757人）、京都市（1,584,626人）、神戸市（1,536,716人）、福岡市（1,531,174人）、広島市（1,163,405人）、川崎市（1,097,090人）、仙台市（1,090,162人）、北九州市（1,044,966人）、千葉市（858,702人）となっています。本市は夜間人口総数では9番目ですが、昼間人口総数では10番目に位置しています。

昼夜間人口比率をみると、大阪市の141.2が最も高く、次いで東京都区部の137.5、名古屋市の117.0と続いています。一方、昼夜間人口比率がもっとも低いのは本市の87.8で、次いで横浜市の90.5、千葉市の97.2となっており、東京都の影響が大きいこれら3市だけが100を下回っています。

昼間の人口密度（人/k㎡）をみると、東京都区部（17,906人）が最も高く、次いで大阪市（16,559人）、名古屋市（7,703人）、本市（7,600人）となっています。また、昼間接近度の短い順は東京都区部（8.0m）、大阪市（8.4m）、名古屋市（12.2m）、本市（12.3m）となっており、本市は4番目に位置しています。

表11 13大都市の昼間人口及び夜間人口（平成12年）

都 市 別	昼 間 人 口	夜 間 人 口	昼夜間人口 比 率	昼間人口密度 (人/k㎡)	昼間接近度 (m)
札 幌 市	1 820 757	1 797 479	101.3	1 624	26.7
仙 台 市	1 090 162	1 007 628	108.2	1 383	28.9
千 葉 市	858 702	883 008	97.2	3 156	19.1
東 京 都 区 部	11 125 135	8 092 268	137.5	17 906	8.0
川 崎 市	1 097 090	1 249 029	87.8	7 600	12.3
横 浜 市	3 091 166	3 414 860	90.5	7 072	12.8
名 古 屋 市	2 514 549	2 148 949	117.0	7 703	12.2
京 都 市	1 584 626	1 454 368	109.0	2 597	21.1
大 阪 市	3 664 414	2 595 394	141.2	16 559	8.4
神 戸 市	1 536 716	1 492 143	103.0	2 795	20.3
広 島 市	1 163 405	1 124 765	103.4	1 568	27.1
北 九 州 市	1 044 966	1 010 127	103.4	2 158	23.1
福 岡 市	1 531 174	1 336 662	114.6	4 512	16.0

(注1)昼間人口、夜間人口とも年齢「不詳」を除く。

(注2)他都市の昼間人口密度算出に用いた面積は総務省統計局の「平成12年国勢調査報告」による。